

令和 8 年度大牟田市文化芸術振興審議会第 1 回会議 摘録

日時	令和 8 年 6 月 4 日（木） 10：00～11：30
場所	大牟田市役所北別館 4 階 第 3 委員会室
次第	1 審議会委員自己紹介（資料 1） 2 審議会について（資料 2） 3 会長、副会長の選任 （議題） 1.第 3 期文化芸術振興プランに掲げる事業の令和 7 年度の取り組み状況について（資料 3） 2.令和 8 年度の主な取り組みについて（資料 4） 3.その他
出席者	（審議会員） 日下部委員、徳川委員、野中委員、四井委員、三宅委員、梶原委員、 砥上委員、橋本委員、弓削委員、諸田委員 （事務局） 大倉野市民協働部長、木下生涯学習課長、龍生涯学習課主査、吉田 生涯学習課担当

（委嘱状の交付等）

令和 8 年 5 月 1 日より新たな任期となることから、全委員に委嘱状を交付。
 各委員の自己紹介後、大牟田市文化芸術振興審議会の概要について事務局より説明。
 大牟田市附属機関設置条例に基づき、審議会の会長及び副会長各 1 人を選任する必要があることから、事務局より以下のとおり提案。

会長：九州大谷短期大学 日下部委員

副会長：大牟田文化会館館長（公財）大牟田市文化振興財団常務理事 徳川委員

→ 出席委員全員が承認。

（議題）

1 第 3 期文化芸術振興プランに掲げる事業の令和 7 年度の取り組み状況について資料 3

（事務局）資料 3 に沿って説明

（委員）

No.28.文化芸術を活用した人づくり・まちづくり事業の内容の演劇ワークショップについて、実施後のアンケートは取っているのか。取られている場合、次年度に上手く活かしているか。

（事務局）

ワークショップ後に子ども達にアンケートを実施している。

グループで劇を作っていく過程で、みんなで意見を寄り添わせる必要があること、自分の思いだけではできないことなどについて、子ども達がどこまで気づいてくれたかをアンケートで一番見ている。結果は、ほとんどの子ども達が、そこに気づいてくれている。

また、ワークショップ終了後には、教職員と講師が意見交換をする場を必ず設けている。教職員の先生方からは、普段の生活では見えない子ども達の行動や考え、変わっていき姿に驚いたという意見が多く、先生方の気づきにも繋がっている。

(委員)

情報共有となるが、日本フィルが R8 年度事業として、文化庁に「劇場・音楽堂等と芸術団体との連携による地域活動基盤形成支援事業」の申請をし、九州では、大牟田と鹿児島が採択された。大牟田市は日本フィルとの協定に基づき毎年 2 月に行われる本公演での子どもの無料シートなどの対応を行ってあるが、それとは別に、文化会館でも日本フィルと協定を結び、本公演の補助事業として地域や学校でのコンサートの取り組みを行う。その中で、子ども達への楽器指導も採択された。今後、教育委員会と連携し、中学生などへの楽器指導の機会を作っていくこととなる。

このため、No.11「日本フィルハーモニー交響楽団による子ども達への楽器指導」について、R7 年度は未実施となっているが、R8 年度は No.11 に関して、達成できる見込みとなる。

(委員)

No.11 に関して、予算確保ができなかったとあるが、R8 年度に文化会館で実施される楽器指導にも費用がかかるのではないのか。

(委員)

R8 年度の補助事業は日本フィルが負担し、日本フィル負担分に対して文化庁から補助が出る。文化会館や大牟田市の手出しはない。

(委員)

4 月に開催された大牟田奏友会のグリーンコンサートでは、大牟田だけでなく近隣自治体の中高校生も参加していた。また、フィナーレでは全員が出演し、多くの人で作り上げられた実感があつた。

先ほどから話が出ている日本フィルが、地域の子子ども達に指導することで、子ども達の音楽のレベルがあがるのは良いことだと思う。引き続き頑張っていただきたい。

(委員)

文化芸術振興審議会の資料は広く市民の方に公開される資料なので、資料 3 の「関連・団体等」の項目は、特定の団体だけでなく、他にも関わった団体を記載し、関わり方の横展開を見える化したほうがよいのではないのか。

(事務局)

「関係課・団体等」の欄については、文化芸術振興プランに掲載していた団体をそのまま載せている。確かに、ここに載せていない団体とも連携している事業もあるため、今後、実態に合わせて掲載していきたい。

(委員)

プランに基づき、様々な事業に取り組んであると思うが、手を挙げた人だけがやれる取り組みになっているように感じる。逆の言い方をすれば、手を挙げなかった人は、一生、文化会館に行かない、芸術鑑賞をしないという人もいると思う。

筑後市では、中学校の文化発表会はすべてサザンクス筑後で行っている。サザンクス筑後の利用者数を増やす目的というのもあると思うが、筑後市の中学生は3年の間に、必ずサザンクス筑後で歌を歌う機会がある。また、各学校のブラスバンドの発表や、演劇鑑賞なども行っている。文化会館などがどう小・中学校と関わりを持つか考えることが大切。

大牟田市では、学校で文化会館を利用する場合でも施設使用料がかかるが市町村によっては無料になっている。小・中学生の間に1回でも利用するような仕組みを作ることによって、市民が広く、文化施設に行こうとする気持ちが高くなる。行ったことがある場所は、次に行くハードルが下がり、利用者を増やす取り組みに繋がっていくのではないかと。また、小さいころにそういう経験をした人は、大人になっても行くといわれている。ハードルを下げることが、結果的には裾野を広げ、文化芸術・音楽関係も含めた発展につながっていくのではないかと。

(事務局)

本市の文化芸術振興プランでも5つの基本目標を掲げている中で、「文化芸術で未来をはぐくむ」という基本目標の1番を重点目標の1つとしている。当該プランは、子どもの頃から文化芸術に触れる機会をたくさん作っていきたいという思いで策定しており、模索しながら事業展開を行っている。手を挙げた人だけに届くというのも課題であると認識しており、来る人だけに文化芸術に触れる機会があるというのではなく、アウトリーチ的なところも視点にいれながら、今後取り組んでいきたい。

学校教育の場で文化芸術に触れる機会をたくさん作ることによって、子ども達の家庭環境に左右されず、平等に文化芸術に触れる機会になる。教育委員会とも連携しながら、進めていきたい。

2 令和8年度の主な取り組みについて 資料4

(事務局) 資料4 に沿って説明

(委員)

- ①日本フィルのアンサンブルコンサートや演劇ワークショップなどで、具体的な実施学校名が出てきたが、その決め方はどうしているのか。

- ②①に関連して、より多くの機会を与える視点から、近隣の学校と一緒にすることはできないのか。
- ③新規事業の「大牟田市協働・提案型文化芸術活動支援事業」について具体的に決まっていることがあれば教えて欲しい。

(事務局)

- ①学校の選定については、教育委員会と連携して行っている。学校の中でも手を挙げた学校から選び、実施している状況。学校の考え方や年度の計画などを加味しながら決定している。
- ②できるだけたくさんの子どもに触れてもらいたいという思いはあり、複数の学校で一緒に開催できたらと思うが、開催場所や移動の問題などを解決していく必要があり、教育委員会ともまだそこまで話ができていない状況。今回意見をいただいたことを機会に、その点について教育委員会とも今後協議していきたい。
- ③大牟田市協働・提案型文化芸術活動支援事業については、文化芸術団体や個人のアーティストを対象に文化芸術活動により、まちが活性化するような取り組みを提案してもらい、大牟田市と協働で実施していくというもの。事業の審査を行った上で採択されれば、団体が主体となり事業を実施。そこに市が補助金などの財政的な支援や、可能な範囲の人的支援、広報支援を行っていく。

(委員)

- ①大牟田市協働・提案型文化芸術活動支援事業の支援というのは、1つの事業に対してか。それとも年間を通じた活動に対してか。
- ②わくわくシティ基金補助事業のように、こちらが企画書を出して、審査を通ればその企画に対して支援がされるということか。

(事務局)

- ①1つの事業に対しての支援となる。
- ②お見込みのとおりである。ただし、わくわくシティ基金補助事業は子ども・若者の育成に繋がるものという条件があるが、当該事業は、文化芸術振興プランの趣旨にそった事業であれば、そういった要件はない。7月に募集開始予定。7月の広報おむたに掲載する。

(委員)

高校生が文化芸術に触れる機会として、鑑賞・発表だけでなく、事業のスタッフとして従事する形も増えてきていると感じる。貴重な体験になると思うので、これからも機会を作ってほしい。

また、文化芸術情報について、SNS等活用しながら、様々な形で積極的に情報発信されているが、より多くの市民に届くよう今後も引き続き、発信に努めてほしい。

(委員)

大牟田市民文化のつどい事業について、文化芸術団体の高齢化や会員の減少により、会の継続などが課題だと思うが、会員を増加させるための具体的な取り組みを行っているのであれば教えてほしい。

(事務局)

大牟田市民文化のつどい事業は、実行委員会が主催、各文化団体が主管となって事業に取り組んでいるが、主管団体において、毎年事業の計画書や予算書を提出してもらう中で、子ども達の育成につながる取り組みや、会員の増加につながる取り組みを入れてもらうようお願いしている。団体によっては、子ども達の発表の時間を設けたり、学校に子ども会の会員募集のチラシを配布したり、子ども達の作品展示を行ったりと、子ども達・高校生が関わるような取り組みを要素として入れている。

(委員)

市民文化のつどいの主管団体は、大牟田文化連合会の団体がほとんどである。若い人が参加できるようにお願いしているが、高齢化の方が先に進んでいる状況。

(委員)

音楽家協会は、まちの芸術家派遣事業において派遣依頼があった場合、体育館で生演奏をしている。子ども達が生演奏を聴けるということは素晴らしいことだが、文化施設のホールと体育館では、10倍くらい音の良さが違う。

文化会館での実施はホールの利用料やバス代がかかるが、まちの芸術家派遣事業に応募した複数の学校をまとめて、文化会館の小ホールに来てもらうととっても良いものが聞いてもらえると思う。まちの芸術家派遣事業のもう1歩進んだところで、そのような取り組みがあってもいいのではないか。

(委員)

(公財)福岡県市町村振興協会主催による「中学生の未来に贈るコンサート」というものがあり、九州交響楽団の演奏を生で聞くことができる。このコンサートでは、遠方の中学校にはバスが派遣される。このコンサートは3年に1回体験できるようになっており、中学生のうちに1回体験できるようになっている。このような事業が大牟田市独自であれば良いなと思っている。

また、どこの学校も合唱コンクール(発表会)を必ずやっているが、大きな舞台に立つ経験はそういう機会ではできない。子ども達は、体育館の舞台でも緊張するが、文化会館の舞台に立つ機会を中学生のときに得られるというのはとても大きいのではないか。ただ、大牟田市は学校で使用する場合にも施設使用料が必要となるのでハードルが高い。

(事務局)

教育委員会での開催の場合は、文化会館の施設利用料は5割減免にはなるが、全額

ではない。また、プラネタリウムは年1回無料で見ることができる。

学校教育という場面での文化芸術体験となると、教育委員会との連携、子どもの移動、時間をどう確保するかが大きな課題となる。市民協働部では社会包摂的な視点は常に持ちたいと考え、事業展開している。家庭環境に左右されず、大牟田に生まれた子ども達が、小・中学校の間に文化芸術に触れる体験をしてほしいという思いで事業の組み立てを考えているので、教育委員会とも何ができるのか、協議していきたい。

(委員)

地区公民館で文化祭に毎年参加しているが、準備を行う際は、高齢者が中心となっている。中・高校生がボランティアとして参加してもらえると、活動も継続していける。

(委員)

大牟田押花の会では2年ほど前からイベントで高校生ボランティアをお願いしている。夏休みではあるが、複数の平日の午前に押し花体験教室をやるので、高校生が中々集まらないという課題はある。また、市外から通う高校生もいるが交通費等は出せていない。暑い中ボランティアにきてくれて、金銭的なフォローもない状態なので、せめて交通費などが出せれば子ども達も活動しやすくなるのでは。

(委員)

子ども達と一緒にやると高齢者も元気をもらう。子ども達との触れ合いがもっとできたら。

(委員)

子どもの移動に関しては、昨今の部活動の送迎バス事故の件もあり、文科省から部活の送迎を中心に見直しを行うよう指導があっている。教育現場にとっては厳しい印象も受けるが、考え方を換えれば、送迎に関して良きアイデアを出せる機会である。安全に送り迎えできるというのは、予算だけの問題でなく、その意義を含めて設計できるといいのでは。

3 その他

(委員)

三池・カルタ歴史資料館では、白仁秋津という大牟田出身の明星派歌人が生誕150年ということで、特集の展示をする。展示の中では、秋津が師事した与謝野鉄幹・晶子の手紙や文学仲間との交流を示すような書簡類も展示。21日までの開催で入館無料なので、ぜひご覧いただきたい。

(委員)

自分は、おおむたアートまち歩きプロジェクトの実行委員をやっている。今年度開

催予定の大牟田芸術祭（名称は変更になる可能性あり）では、大牟田のまちを歩きながらアートに触れる機会や、子ども向けのワークショップも企画している。文化芸術を活用したまちづくりの取組みとして紹介させていただく。